

科目名	幼児理解			担当教員	水谷 亜由美	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED3EPG306
期待される学修成果	子ども理解 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	保育現場での経験を生かし、子どもの姿の捉え方やかわり方について具体的な事例を取りあげながら講義する。					
到達目標及びテーマ	乳幼児にはそれぞれの自我があり、豊かな感性と個性を持ち合わせた個体である。よって、保育者として子どもを導いていくためには、「集団としての指導」だけではなく、「一人ひとりの乳幼児の内面を理解し、信頼関係を築き、発達に必要な経験を乳幼児自ら獲得していくように援助する」方法について習得する。					
授業の概要	本講義においては、ビデオや事例などの教材を用いて子どもの姿を丁寧に見、考えていく中で、子どもにとっての相応しい保育のあり方を探っていく。また、近年求められている保護者支援についても考えていく。					

授業計画	
第1回	子ども理解と歴史
第2回	保育における幼児理解の意義
第3回	幼児理解と子ども観
第4回	幼児理解と発達の理解
第5回	子どもの内なる世界の理解
第6回	保育における理解と援助（１） 保育者にとっての理解
第7回	保育における理解と援助（２） 理解から生まれる保育のねらいと援助
第8回	幼児理解を深める方法（１） 観察
第9回	幼児理解を深める方法（２） 記録
第10回	幼児理解を深める方法（３） 保育カンファレンス
第11回	特別な支援を要する子どもの保育から考える幼児理解
第12回	保育とカウンセリングマインド
第13回	子育て支援・家庭支援における幼児理解（１） 保護者とのかかわり
第14回	子育て支援・家庭支援における幼児理解（２） 地域との連携
第15回	小学校との連携と幼児理解

事前学修	2時間	各回、次回の授業内で扱う事例を配布する。事例を熟読し、意見や質問をまとめておく。
事後学修	2時間	授業で学んだ内容を整理し、今後現場でどのように生かしていきたいのかをまとめる。
フィードバックの方法	レポートは、学生の記述に対して毎回コメントを記入して返却し、自らの幼児の捉え方の傾向と課題が意識できるようにする。レポートの総合的な評価、討論の内容に関する評価は、授業内に全体に説明し、質問に応じる。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	80%	事例の考察(小レポート)と授業のまとめのレポートから理解度と自分の考えを述べているかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	発表の内容とグループワークや討論への参加度により評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンパス子ども理解－エピソードから考える理論と援助－	上田敏丈・香曽我部琢(編)	株式会社 建帛社	978-4-7679-5132-4	なし
参考資料	幼稚園教育要領 （平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針 （平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 （平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）			